

氏名	大崎勝一郎
学位の種類	医学博士
学位授与番号	甲第170号
学位授与の日付	昭和40年9月30日
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	Steel Chamber 使用による兎耳生体培養法の耳鼻咽喉科学的応用に関する研究 第1編 Steel Chamberの透明室内における組織新生ならびに挿入したGelfoamの吸収 第2編 Steel Chamberの透明室内に挿入したPolyethylene RingおよびStainless Steel Wireに対する組織反応
論文審査委員	教授 高原滋夫 教授 小川勝士 教授 村上栄

学位論文内容の要旨

近年、中耳手術施行に際して、鼓室内の病巣を除去したのち、伝音機構を再建し聴力を改善するために、吸収性 (Gelfoam) ならびに非吸収性異物 (Polyethylene TubeおよびStainless Steel Wire) を中耳腔に挿入する症例に屢々遭遇するようになってきた。それゆえに、著者は Williams によって工夫された Steel Chamber 法を若干改良して兎耳生体培養を試み、その透明室内腔に、上記異物を挿入して、新生組織が如何に反応するかを顕微鏡下に観察した。さて、第1編においては透明室内における組織新生の過程ならびに速度、およびGelfoam吸収の経過を生体観察し、また、第2編においては Polyethylene Ring ならびに Stainless Steel Wire に対する新生組織の反応を生体観察し、さらに異物を含んだ新生組織を固定染色標本にして鏡検しつぎの結論をえた。

- (1) 組織新生の過程ならびに速度については、異物を挿入した場合にも変りは認められなかった。ただし、化膿巣が発現した場合には、その器質化が非常に遅延することが認められた。
- (2) Gelfoamは、喰食作用によって完全に処理、吸収される。
- (3) 3ヶ月ないし9ヶ月の観察においては、新生組織に対してPolyethylene RingもStainless Steel Wire もその周辺にのみ軽度な異物反応を呈するのみで、生体内に安定して留まっていることが判明した。
- (4) なお、透明室内に発現する脂肪細胞、軟骨およびリンパ管等について観察し文献的考察を試み

た。

論文審査の結果の要旨

大崎勝一郎提出の「Steel Chamber使用による兎耳生体培養法の耳鼻咽喉科学的応用に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

最近の中耳手術に際しては、伝音機構を再建し聴力を改善する方法が企てられ、その為に Gelfoam 並 Polyethylene Tube, Stainless Steel Wire 等が中耳腔内に挿入される。筆者は、かかる異物が生体内で如何なる運命又は反応を呈するかを検討せんとして Steel Chamber 法を応用して兎耳生体培養を行い、その透明室内を前記異物を挿入して顕微鏡下に観察した。第1編では組織新生の過程ならびに速度について異物挿入の場合と然らざる場合とを比較し両者間に格別の差異のない事を認めた。然し化膿が発現した場合は、その器質化が大変遅延することを認めた。又 Gelfoam は、噴食作用により完全に吸収処理されたのを確認した。第2編では Polyethylene Ring 並びに Stainless Wire に対する組織反応を観察し、その周囲に軽度の異物反応を呈するのみで、生体内に安定して留まっていることを確めた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。